

【平成 20 年度・後期学期・ミクロ経済学 I I・期末試験】

☆ 平成 21 年 1 月 27 日（火）2 限実施。

☆ 両面に印刷されています。

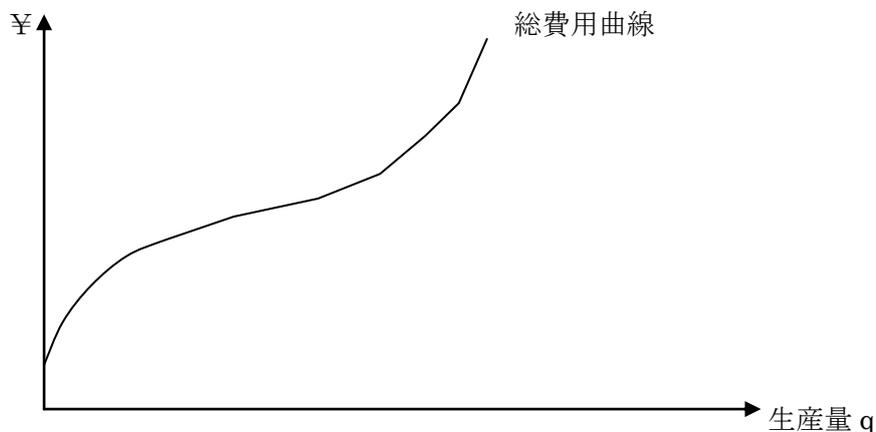
注意事項

- ☆ 【問 1】と【問 2】は必須問題です。必ず解答してください。
- ☆ また、【問 3】～【問 5】は選択問題です。3 問中 1 問を選んで解答してください。
2 問以上解答しても、最初に解答した問題しか採点しません。
- ☆ すべての問題で（問題文の指示がなくても）関連あるグラフは、自分の解答の必要に応じて（定規などを使って丁寧に）描くこと。
- ☆ 計算問題では、小数点以下第二位で解答してください。（つまり、第三位で四捨五入する。）

【必須問題】

【問 1】 解答用紙に、与えられたよう、総費用曲線を示し、次の(1)～(5)に答えなさい

- (1) 与えられた総費用曲線上の適当な点を選び、固定費と可変費の関係をこの図上で説明しなさい。
- (2) 限界費用、平均費用、平均可変費用、平均固定費用について数式で定義を述べ、それぞれを総費用曲線の図から導き出す方法を説明しなさい。
- (3) (2)にしたがって、限界、平均、平均可変費用曲線を作図しなさい。（これらの各費用曲線だけのグラフを与えられたグラフの真下の軸を利用して描き、上の総費用曲線との関係を明らかにすること。）
- (4) 企業が利潤最大となるように生産高を決定するときの条件を述べ、この企業が正の利潤をあげている状態で、利潤最大となる生産量を与えられた図および(3)で作成した図に描き入れなさい。
- (5) (4)で表した企業および市場が最終的な市場均衡(つまり、市場価格=平均費用の最少値となる)に至る過程を説明しなさい。



【問 2】のように市場の逆需要関数が与えられている場合について答えなさい。

$$P = -0.5Q + 50$$

- (A) 独占企業がこの市場に供給していると仮定しよう。この企業の総費用関数が次のように与えられているとき、限界費用関数、平均費用関数、平均可変費用関数を求めなさい。

$$TC(Q) = 0.5Q^2 + 2$$

- (B) この企業の最適生産量を求め、この生産量に対する市場での独占価格を求めなさい。また、この独占の均衡点(最適点のこと)における需要の点の弾力性をもとめなさい。
- (C) (C) の独占企業の生産決定について、グラフを描きなさい。
- (D) (C) でもとめた独占企業の価格と生産量に基づく市場での取引について、消費者余剰、生産者余剰を求めなさい。
- (E) 仮に、この市場が競争的に生産された場合に市場均衡となる均衡価格、均衡数量を求め、この独占企業をもたらす死荷重を計算しなさい。

【選択問題】

☆ 1 問選んで解答すること。

【問 3】ある小さな町の劇場では、高齢者の価格と普通の大人の価格を価格差別している。これら 2 つの需要者のグループが次のような需要曲線に面しており、この劇場の限界収入関数が $MC=Q+6$ で与えられているとすると、この劇場が利潤最大化するために、どのようにそれぞれのグループに価格設定するか、計算し、グラフを使って説明しなさい。

普通の大人の逆需要曲線： $P_A = 20 - Q_A$

高齢者の逆需要曲線： $P_S = 20 - 4Q_S$

【問 4】自然独占の市場について次の問いに答えなさい。

- (1) 自然独占となっている市場の例を挙げなさい。
- (2) 費用曲線の立場から、自然独占の市場の特徴を述べなさい。
- (3) 自然独占の市場を独占企業に任せ、規制を行わない場合の帰結と問題点を図を使って説明しなさい。
- (4) 限界費用＝需要となる点で生産するように規制した場合の利点と問題点を述べなさい。
- (5) 平均費用＝需要となる点で生産するように規制した場合の利点と問題点を述べなさい。

【問 5】独占的競争市場について次の問いに答えなさい。

- (1) 独占的競争市場となっているような財はどのような財か例を挙げなさい。
- (2) 需要関数の立場から、独占的競争市場の特徴を述べなさい。
- (3) 独占的競争市場で生産する企業が正の利潤を上げている状況を作図し、この企業の生産高と財に対する価格レベルを図に示しなさい。
- (4) (3) の状況の企業が長期にはどのような状態になるか作図し、どのようにそこにいたのか、またそのときの生産高、価格、利潤のレベルについて、図を用いながら説明しなさい。